

光市記者発表資料

令和4年5月17日

件名

ニジガハマギクを育てよう(さし芽作業)

内容

1. 目的

光市立浅江小学校に隣接している、潮音寺山(標高62.3m)の整備を進めてきたが、潮音寺山に自生しているニジガハマギクが減少していた。そこで、平成17年より浅江小学校の6年生が総合的な学習時間を利用して、さし芽による保護活動を始めた。平成25年からは4年生が担当し、この取り組みを通して、児童とふれあう機会を大切にして自生地を復活させる。

浅江小の校章は、昭和32年にニジガハマギクをデザイン化し図案化したものが使用されている。

2. 日時

令和4年6月1日(水) 10:25~12:10 (3,4校時) 4年生 3クラス 111名

3. 場所・方法

光市立浅江小学校体育館横

ビニールポット(黒色・直径約10cm)にさし芽をして学校で育苗後、秋に潮音寺山の自生地に移植する。

4. 指導者 浅江地区コミュニティ協議会役員(潮音寺山里山づくり推進部部員他)

5. ニジガハマギクの由来について

室積女子師範(現・山口大学教育学部)の教師だった池田良成先生の調査研究によって植物学者・牧野富太郎博士に知られることになり、昭和7年に牧野博士によって、ニジガハマギクのことが学術的に発表された。命名は、ニジガハマに自生することから。

昭和15年に光海軍工廠が開庁、光駅と改名されたが、それまでは虹ヶ浜駅とよばれていたように、当時はニジガハマの地名は今より一般的だったと思われる。美しい地名がついたノギクなので、各地からわざわざ光を訪れる山野草の愛好家もいる。

6. 主催

浅江地区コミュニティ協議会

主管 潮音寺山里山づくり推進部

やまもと ようじ

部長 山本 洋治

問合せ

浅江コミュニティセンター

電話 0833-72-1438